CASBEE熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	年金事務所(仮称)	階数	地上3F
建設地	熊本県熊本市東区健軍1丁目440番	構造	RC造
用途地域	22条地域	平均居住人員	30 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2013年4月3日
敷地面積	2,466 ㎡	作成者	㈱桜樹会・古川建築事務所
建築面積	1,192 ㎡	確認日	2013年5月10日
延床面積	3,369 ㎡	確認者	㈱桜樹会・古川建築事務所

■ 外観

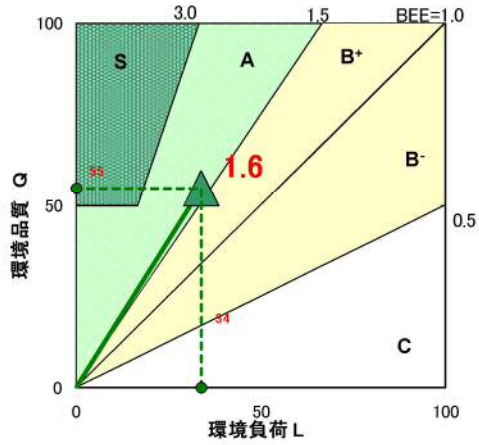
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★☆

BEE = 1.6

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値 BEE値	判定値 Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆☆★★

排出率
75%

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
93

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	100.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	77.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	102.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	86.2

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE熊本《新築》【 評価結果 】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築（簡易版）2010年版 I使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要

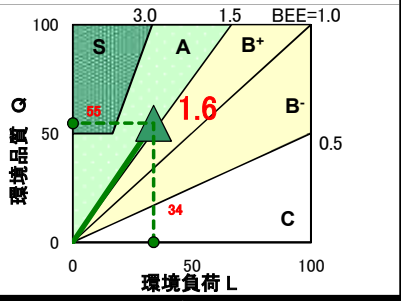
建物名称	年金事務所(仮称)	階数	地上3F
建設地	熊本県熊本市東区健軍1丁目440番	構造	RC造
用途地域	22条地域	平均居住人員	30 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2013年4月3日
敷地面積	2,466 ㎡	作成者	㈱桜樹会・古川建築事務所
建築面積	1,192 ㎡	確認日	2013年5月10日
延床面積	3,369 ㎡	確認者	㈱桜樹会・古川建築事務所

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

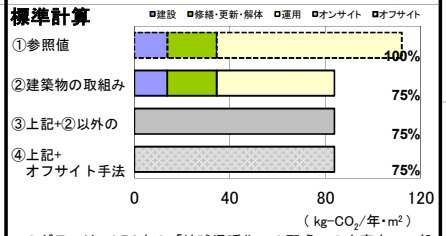
BEE =1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★ B⁺: ★★★ B⁻: ★★ C: ★



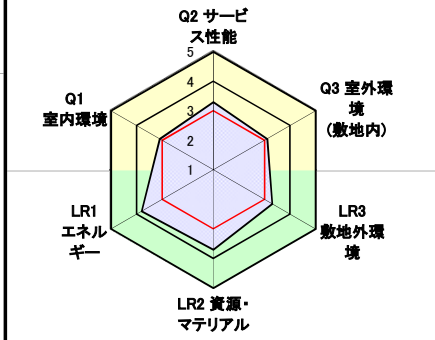
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

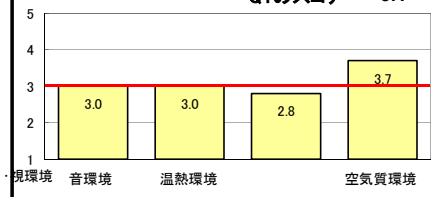
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



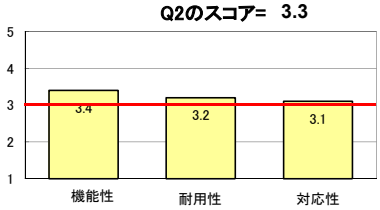
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 — Q のスコア= 3.1

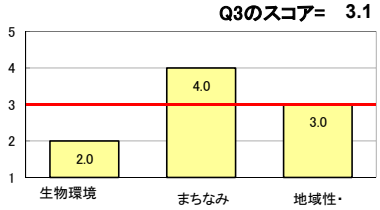
Q1 室内環境 — Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能 — Q2のスコア= 3.3

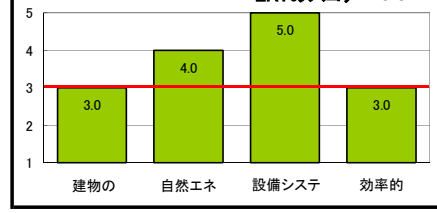


Q3 室外環境（敷地内） — Q3のスコア= 3.1

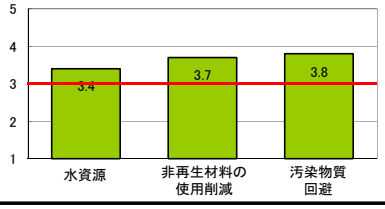


LR 環境負荷低減性 — LR のスコア= 3.6

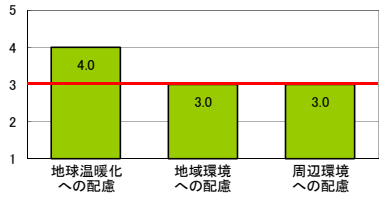
LR1 エネルギー — LR1のスコア= 3.8



LR2 資源・マテリアル — LR2のスコア= 3.7



LR3 敷地外環境 — LR3のスコア= 3.3



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 93

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = #####

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 = 78

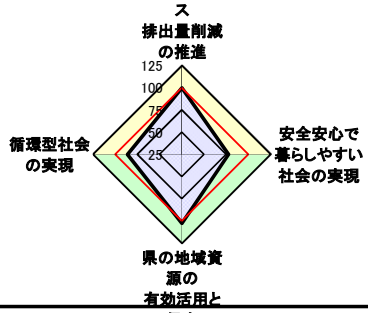
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = #####

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 = 86

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

・利用しやすく分かりやすい施設。

Q1 室内環境

・暗くなりがちな中廊下にトップライトを設け、自然光を積極的に取り込む計画。
・内装材はＦ☆☆☆☆の材料を使用する。
・衛生機器や手摺など、利用者が使いやすく安全なバリアフリーデザイン。
・十分な天井高を設け室内の圧迫感を低減。
・十分な換気能力を有する。

Q2 サービス性能

・シンプルな動線計画として、利用者に分かりやすく効率的な平面計画。
・雨天時でも濡れることな車の乗降が可能な十分な屋根を有したポーチの計画。
・バリアフリー計画。
・各階に案内板を設置。
・設備に対しいて適切な更新性を有する。

Q3 室外環境（敷地内）

・ピロティ空間を設け、都市空間の活動上のアニメティ向上に貢献。
・健軍神社参道や周辺の景観になじむ形態や色彩としている。

LR1 エネルギー

・廊下に天井トップライトを設置、自然採光、換気および排煙に配慮している。
・高断熱・複層ガラスによる冷暖房負荷の低減。
・高効率設備機器、ＬＥＤ照明器具の採用。
・ライトシェルフにより自然光を取込む工夫をしている。

LR2 資源・マテリアル

・省水型機器の導入。
・リサイクル可能な仕上げ材を選定している。
・汚染物質含有材料使用の回避

LR3 敷地外環境

・外壁は周辺環境へ配慮し、圧迫感を抑えた明るく清潔感のある色彩デザイン。
・地下浸透舗装の採用
・駐車スペースの設置

その他

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
年金事務所(仮称)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:CASBEE-新築（簡易版）2010年版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.40			3.1
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・応答制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 湿度・温度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調への配慮		-	-	-	-	
8 熱源システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.8	0.25	-	-	2.8
3.1 昼光利用		2.6	0.30	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備	ピロティへのライトシェルフ、中廊下への採光トップライトの設置	5.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 機器等のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3 映り込み対策		-		-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	規制対象外又はF☆☆☆☆材料の採用	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4 必要計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	館内禁煙であり、屋外に喫煙スペースを計画している	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	執務室の近くにﾃﾞｯｷﾃﾗｽを設け、1階ホールには自販機ｽﾍﾟｰｽを計	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	評価項目数が7項目	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 清掃等作業性		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31	-	-	3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁仕上げにタイルを使用	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

	2.3 適切な更新			-	-	-	
	2.4 信頼性		3.6	0.19	-	-	
	1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水・衛生設備	節水型器具の採用、配管の系統区分	4.0	0.20	-	-	
	3 電気設備	非常用発電設置の設置、電源精密機械の地下空間への設置なし	4.0	0.20	-	-	
	4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5 通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機械の地下空間への設置なし	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.29	-	-	3.1
	3.1 空間のゆとり		3.4	0.31	-	-	
	1 階高のゆとり		3.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率≒0.167	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.31	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.1	0.38	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2 給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新できる	4.0	0.17	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみへの調和、地域性のある外装材、視点場からの良好な景	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	-	4.0
	2.1 自然エネルギーの直接利用	ライトシェルフ、トップライトの採用	4.0	0.50	-	-	
	2.2 自然エネルギーの変換利用	太陽光発電パネルによる自然エネルギーの変換	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		該当なし	5.0	0.30	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価（ERRによる評価）	ERR=35.7%	5.0		-		
	集合住宅の評価		3.0		-		
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
	1.1 節水	節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.63	-	-	3.7
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイル、ビニール床材、建築石材	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	原則として県産木材を採用する	5.0	0.05	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備機器がそれぞれ取り外すことができる	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	-	3.8
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料の使用	5.0	0.32	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
	1 消火剤	不活性ガス消火剤	4.0	0.33	-	-	
	2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.33	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		敷地内の緑化対策	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	自転車置場の設置、適量な駐車スペース、駐車場入口位置の配慮	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	0.33	-	-	
	2 振動		3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	年金事務所（仮称）

■評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	93.2
重点事項	重点項目（配慮項目）	スコア	重み係数	評価点	重点事項重み係数	評価配点
① 温室効果ガス排出量削減の推進				100	0.40	40.00
	Q1-2.1.3 外皮性能	3.0	0.05			
	Q1-3.1.3 昼光利用設備	5.0	0.05			
	Q1-3.2.2 昼光制御	3.0	0.05			
	LR1-1 建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
	LR1-2 自然エネルギー利用	4.0	0.20			
	LR1-3 設備システムの高効率化	5.0	0.30			
	LR2-2.1 材料使用量の削減	3.0	0.10			
	LR3-2.3.3 交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				77.5	0.20	15.50
	Q2-1.1.3 バリアフリー計画	4.0	0.25			
	Q2-2.1.1 耐震性	3.0	0.25			
	Q3-1 生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
	Q3-3 地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
	LR3-2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				102.5	0.20	20.50
	Q3-2 まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
	LR2-1.1 節水	4.0	0.30			
	LR2-1.2.1 雨水利用システム導入	3.0	0.20			
	LR2-2.5 持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				86.2	0.20	17.24
	Q2-2.2 部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
	Q2-3 対応性・更新性	3.1	0.30			
	LR2-2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
	LR2-2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
	LR2-2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数